

# 安心して暮らせる

# 魁のまちの実現

平成27年第1回水戸市議会定例会で、高橋靖市長は、市政運営についての所信を明らかにしました。

私は、水戸市を安心して暮らせるまちとしていくために、市長就任以来、常に全力を尽くしてまいりました。

東日本大震災により、まちも、人の生活も大きな打撃を受けた本市にとって、震災からの復旧、復興は最重要課題であり、道路、上下水道、学校等の公共施設の復旧はもちろん、防災・減災対策や地域経済の回復に重点的に取り組んできたところがあります。市民の暮らしは落ち着きを取り戻し、まちの姿もほぼ回復しつつありますが、決して大震災を風化させることがあってはなりません。市民と手を携えながら取り組んできた災害への備えをさらに強化し、次の時代への責任として、危機管理能力の高いまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

そして、今、私たちは、復旧、復興にとどまることなく、さらなる飛躍へと大きく羽ばたいていくことが求められております。

この4年、水戸の未来を担う子どもたちのために、子育て支援や水戸スタイルの教育に力を入れてきたところであり、子どもの医療費無料化や学力向上サポーターの配置を進めるほか、学校施設の耐震化も完了させました。地域経済の活性化の視点からは、企業立地に向けた大胆な優遇策の導入や水戸まちなかフェスティバルの開催などに取り組むとともに、暮らしやすい環境づくりとして、道路、

下水道等の生活基盤の整備も進めてまいりました。

また、徹底した行財政改革に取り組み、窓口開設時間の延長など、市民サービスの向上に努めてきたところでもあります。健全な自治体経営の視点からは、市税等の収納率向上を図るとともに、未来の水戸市を担っていく次の世代に負担を先送りしないという強い思いから、水道料金をはじめ、下水道や農業集落排水処理施設の使用料、国民健康保険税の税率の改正を行い、市民の皆様にご負担をお願いするという苦渋の決断もしてまいりました。

これらの様々な政策に成果をあげるとともに、将来にわたっての水戸市の発展に向けたプロジェクトにも道筋をつけることができたと思っておりますが、市民の豊かで安心な暮らし、そして、個性と魅力にあふれるまちづくりへとしっかりと結果させてまいりたいと決意を新たにしているところであります。

私は、市民の視点からまちづくりを進める中で、市民のまちづくりにかける思いや情熱が高まっていることを肌で感じてきたところであり、市民の力、そして、地域コミュニティの力を高め、市民主体の取組を一層伸展させながら、市民とともにつくりあげた水戸市第6次総合計画「みと魁プラン」を着実に実行していくためにも、引き続き、魁のまち・水戸の実現を目指してまいります。



平成27年第1回水戸市議会定例会

## 1

### 安心して暮らせる未来の水戸への ランドデザインを描く

昨年、消滅可能性都市という衝撃的な言葉が大きくクローズアップされました。

人口減少社会、超高齢社会の到来は、生活の根幹となる経済や社会保障に大きな影響を及ぼすものと危惧されております。本市におきましても、昨年、人口動態がマイナスとなり、将来的な人口減少が見込まれる中で、危機感を持って、5年先、10年先、さらにはその先を見据えたまちづくりを進めていかなければなりません。

私は、この厳しい現実にも正面から立ち向かい、乗り越えていくための将来のまちづくりの方向、すなわち、安心



中心市街地

できる未来の水戸を市民とともに実現していくためのランドデザインをハード・ソフトの二つの視点から描いております。

ハードの視点としては、持続可能な都市構造への転換と都市の再生であります。これまで整備を進めてきた都市基盤とともに、地域の特性や魅力を生かしながら、効率的で暮らしやすい、そして、環境にもやさしい水戸ならではの多極ネットワーク型コンパクトシティの実現を目指してまいります。

そのためには、都市核においては、商業、業務をはじめ、医療、教育、文化、居住等の都市中枢機能の集積を図り、都市の発展、地域経済の活性化をリードすることのできるまちとしての再生を図っていかねばなりません。そして、赤塚駅周辺、内原駅周辺地区などの地域生活拠点をはじめ、産業系拠点、さらには、周辺部においても、それぞれの地域特性を生かした魅力や活力を高め、コミュニティの維持向上を図りながら、メリハリのあるコンパクトなまちづくりに取り組んでまいります。それらを支える動線となる公共交通をはじめ、歩行者や自転車移動しやすい、人が生き生きと活動でき、環



上…水戸駅北口バスターミナル  
右…自転車道



境にも配慮した交通ネットワークの構築も進めながら、まちなかに人を呼び込み、新たな流れを生み出し、地域経済の活性化につなげてまいりたいと考えております。

ソフトの視点としては、多彩な文化や交流の創出であります。

私は、まちが発展していくためには、都市基盤の整備とあわせ、まちに様々な人が集い、ふれあい、活動することを通じ、多くの人の心を揺り動かすような感動が生まれ、次代を担う子どもたちの豊かな感性を育てていくという循環を生み出すことが必要であると考えております。それこそが、まちの文化であり、まちの個性や魅力を高めていく原動力となっていくからであります。

世界に誇れる水戸芸術館と新たな市民会館を中心とした芸術文化、そして、「するスポーツ」はもちろん、トップレベルの競技にふれることのできる「見るスポーツ」も充実を図り、スポーツ文化を一層伸展させ、多彩な文化を体感でき、楽しめるまちをつくってまいりたいと考えております。あわせて、コンベンションの誘致、自然や歴史、様々な地域資源や伝統文化を生かしたインバウンド観光、さらには、スポーツツーリズムなどにも力を入れ、重層的に魅力を高めながら、多くの人が集い、交流することによって新たな文化が創造され、水戸発の文化が経済や産業の発展にもつながっていく成熟したまちの実現を目指してまいります。



水戸芸術館

※インバウンド観光…国際的な訪日観光。スポーツツーリズム…スポーツイベントなどを軸とした観光事業。

2

芸術文化を伸展させ、多様なコンベンションを誘致できる新たな市民会館、そして、いきいき茨城ゆめ国体の会場の一つとなる東町運動公園の新体育館の整備によって、市民の夢が膨らむまちづくりを進めてまいりたいと考えております。総合防災拠点ともなる市役所新庁舎、市民の生活を支える新ごみ処理施設を合わせた四つの大型プロジェクトは、多額の事業費を要するものではありますが、市民サービスの向上はもちろん、将来の水戸市の大きな飛躍に不可欠なものであります。

自主・自立の力を高め、活力のあるまちをつくる

国においては、地方創生を重要な政策と位置付け、昨年末には、まち・ひと・しごと創生に向けた長期ビジョンと総合

高めていくべきと申し述べてまいりました。その考えに立ち、みと魁プランにおいては、まちのさらなる成長と発展に向け、重点プロジェクトとして、その礎となる人づくり、安全安心の基盤づくり、経済・産業を活性化するにぎわいづくりという重要課題に、選択と集中によって取り組んでいくこととしたものであります。

その実現のためにも、国の緊急経済対策としての交付金を活用し、経済のエンジンを回す市内消費拡大へのプレミアム付商品券の発行に過去最大規模で取り組むとともに、持続性のある経済発展に向け、みと魁プランを基本として、より実効性の高いしごとやひと、まちの創生を目指した水戸市版人口ビジョン及び総合戦略を策定する方針を定めたところであります。

総合戦略の策定に当たりましては、これまでの発想にとらわれない、新たな視点からの知恵とアイデアが求められるとともに、それを実行していく人、そして、実行しようとする熱い思いが必要であります。庁内において、職員提案を取り入れる体制づくりはもちろん、各界各層がしっかりと連携できる組織を立ち上げるとともに、将来



市民との協働により開催している「水戸まちなかフェスティバル」

の水戸を担う学生や若手経営者等によるワークショップを開催するなど、若い世代をはじめ、幅広い意見を反映させながら、地方からの創生の魁となるような取組を市民との協働によって推進してまいりたいと考えております。

自主・自立したまちづくりには、行政内部においても、効率化はもとより、選択と集中の視点からの組織体制づくりが求められます。

私は、時代の課題に対応できるまちづくりに向け、市民が主体となった活動を伸展させ、市民と行政との協働を

戦略が決定されました。

人口の東京一極化を是正し、地方から日本の創生に取り組んでいくという目標のもと、いわゆるバラマキではなく、地方のアイデアや創意工夫の努力に見合った支援を行っていくとの考え方が示されたわけでありました。

私は、これまで、地方の目線による政治を進めていくためには、住民に最も身近な基礎自治体力がつけ、自ら判断し、実行できるだけの都市力を



市役所新庁舎外観イメージ

水戸都市圏のリーダーとしての役割からは、あらゆる分野で、県央地域の発展をけん引していく存在でなくてはなりません。先般、県央地域首長懇話会において、定住自立圏の形成に取り組んでいくことを決定したところであり、圏域唯一の中心市たるリーダーシップを発揮しながら、住民サービスの向上につながる様々な政策のさらなる連携の強化を目指してまいります。

私は、全ては市民のためにを基本として、どのような課題があっても、明るい未来は切り開くことができるという強い信念を持って、何事にも果敢にチャレンジし、市民一人一人が夢や希望を持ち、安心して豊かに暮らすことができ、魁のまちの実現に全力を尽くしてまいります。